

# 保育学・乳幼児教育学が目指す 子どもたちの育ちと学びの支援

北野 幸子  
(神戸大学大学院)

# すべての子どもに質の高い乳幼児教育を

変化の時代:国際化、情報化、人工知能化、多元文化社会

予測不能な時代:災害、感染症の蔓延、紛争

激動の時代・予測不能な社会を生き抜く、心の芯を育む

= 人格形成の基礎を培う質の高い乳幼児教育を

次世代育成 = 社会の存続

次世代育成の在り方 = 社会の発展、環境や平和への意識

特に、乳幼児期 = 人格形成と学びの基盤づくりの時期

(教育基本法 第11条 幼児期の教育)

自尊感情、自己効力感、環境/平和への志向性を育む

個別最適化教育:個々の好きなこと、得意なことの伸長

Gutman, L.M., & Schoon, I. (2013). The impact of non-cognitive skills on outcomes for young people. Education Endowment Foundation.

文部科学省(2016)「幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究ー感性・表現の視点からー」『平成27年度 文部科学省「幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究」いわゆる「非認知的な能力」を育むための効果的な指導法に関する調査研究』

OECD・ベネッセ教育総合研究所(2015)『家庭、学校、地域社会のける社会情動的スキルの育成 国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆』

## 子どもの人権

- ・生存権、教育権、遊びとレクリエーションの権利、意見表明権利、表現の自由、等
- ・「**メンタル・ウェルビーイング**」を考え、支える必要性
- ・自然体験、文化経験、人間関係(関係性の中で育つ)の機会の保障
- ・Co-Agency: 共主体、連携協働: Children's Perspectivesの再考

## 人口減少社会における社会の持続可能性を目指して

SDGsの目標4: すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を生涯学習の機会を促進する



そのために、子育ての連携協働を

**一貫性・継続性**を重視した教育を: 家庭、園・小学校、大学と一緒に

ターゲット4.2: すべての乳幼児の保育の質に言及

## 総合的な実践の中での取り組み

UNICEF(2020)「子どもたちに影響する世界: 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」  
<https://www.unicef.or.jp/report/20200902.html>

世界OMEP声明書「新型コロナウイルス感染症時代の幼児教育・保育の保障を」

[https://53c6013f-2275-4358-b188-b99727ae0ec9.usrfiles.com/ugd/53c601\\_20ad6c06635f41cb823bdb3193dc6819.pdf](https://53c6013f-2275-4358-b188-b99727ae0ec9.usrfiles.com/ugd/53c601_20ad6c06635f41cb823bdb3193dc6819.pdf)

# 乳幼児教育の研究動向

OECD(2020) Education Working Paper

「15歳の学力から考える乳幼児教育保障」

開始時期:3歳

在園期間:4年間はピーク、若干2-3年間<4-5年間

先生一人当たりの子どもの数は少ない方がよい

保育者の研修あり

社会経済的環境(SES:格差是正の効果3歳未保育)

OECD(2021) Starting Strong VI「乳幼児教育における意義深い相互作用への支援」

学びの内容よりも、社会情動的(非認知的)力の重視、資質・能力ベース

乳幼児教育の一体化

関係性支援、協働によるそれぞれの自己発揮、子どもの視点・参画

Co-Agency、保育者の研修の重要性

Balladares, J & Kankaraš, M. (2020). *Attendance in Early Childhood Education and Care Programmes and Academic Proficiencies at Age 15*. OECD Education Working Paper No. 214

OECD (2021), *Starting Strong VI: Supporting Meaningful Interactions in Early Childhood Education and Care*, Starting Strong, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/f47a06ae-en>.

# 保育の質の維持・向上のための方略

OECD (2019), *Good Practice for Good Jobs in ECEC*

世界の研究動向 前提:「保育者が高度専門職である」

政策課題

- ①養成と研修、②保育者の定着、③処遇の適正化、  
④ジェンダー・バランス



- ①学士が一般化

修士: フランス、アイスランド、イタリア等 (台湾: 公幼6割)

- ②日本は30歳未満の保育者が最も多い: 6割弱)

\* 15歳に人気のある職種: 1.7%、10位

- ③OECD平均は、小学校と同一(公立園)(日本のデータは含まず)

- ④EC目標値: 2割

現状: ベルギー、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、UK 7.5-12.5%

参考: OECD (2019), *Good Practice for Good Jobs in Early Childhood Education and Care*, OECD Publishing, Paris: <https://doi.org/10.1787/64562be6-en>. 他

# 保育の質の鍵を握る保育者

OECD(2019) *TALIS Starting Strong 2018 Technical Report*

保育者対象調査: 9か国で実施した国際比較調査

実践の特徴や、養成・研修の状況、満足度、社会の評価

1. どの国でも、リテラシーや数理認識と関わる教育よりも、**社会情動的(非認知的)力量の形成を重視**  
例: 韓国ヌリ・カリキュラム(2019改訂)  
内容(learning contents)が369項目から59項目に縮減  
好きな遊び中心・人間関係重視へ
2. どの国においても、保育職は、仕事に関する満足度が高い
3. **社会からの評価**: 日本が最下位  
(評価されていると感じている保育者の割合が3割)
4. **保護者の評価**、子どもの評価: 日本が最下位  
(例: 保護者評価: 他国約9割、日本約6割)
5. **保育実践(プロセス)の質の外部評価**: 日本の実施状況が最も低い
6. 有資格者: 日本は有資格者が圧倒的に最も多い
7. 研修の位置づけ: 業務としての研修保障
8. 学士の割合: 日本が調査国中最も少ない  
(各国データより、学士以上の方が現職研修に積極的)

# 環太平洋乳幼児教育学会(PECERA)2023年大会

テーマ：変化する時代においていかに子どものレジリエンスを高めるか  
(Strengthening Resilience in Children During Time of Change)

基調講演1：イエレナ・オブラドビッチ先生（スタンフォード大学）

実行機能の研究成果について報告

子どもの栄養状況、精神的ストレス、身体の健康

→実行機能、認知スキルの発達等、に影響

遊びをベースとした学びの経験が実行機能の育の鍵

格差是正（乳幼児期からの教育保障の必要性）

基調講演2：ディアドラ・ガードランド先生（マードリック子ども研究所）

家庭内暴力など逆境にある子どものレジリエンスとメンタルヘルス

暴力が蔓延している家庭で育つ子どもが多い現状の紹介

生涯長きにわたるメンタルヘルスと発達に破壊的な影響がある実態の紹介

子どものレジリエンスの尺度開発とその活用成果

その他シンポジウム等

・榊原洋一先生（CRNアジア子ども学研究ネットワーク）の子どもの

ウェルビーイングとレジリエンス等に関する8か国比較調査

・スンプアン・キム先生（梨花女子大学）のコロナ禍における各種スキルの

子どもの実態や変化、子どもの声に基づくコロナ禍の実態調査

# 誕生からの乳幼児の育ちを支える 保育者の専門性

自尊感情を育む

安心、安定、基本的信頼感

子どもの育ちの根幹

温かいまなざし(関心)と、過度でない期待



基本的な生活習慣      人間関係形成力  
社会性      自己肯定感      学びの意欲

# 見方・考え方＝幼児教育の具体的な在り方

幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。

\* 環境との関わり

\* 自発的な活動である「遊び」を通じて学ぶ  
幼稚園教育要領、指針に準じた教育

# 知識基盤社会に必要な生きる力を育む 保育者の専門性

「暗記」型から「活用」型の学びへ

自分で考えること  
(知識と技術を活用して)



自分で決めること



自分で行動すること

# 資質・能力の育ちを育む 保育者の専門性

- (1) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、  
分かったり、できるようになったりする

「知識及び技能の**基礎**」

- (2) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、  
考えたり、試したり、工夫したり、  
表現したりする

「思考力、判断力、表現力等の**基礎**」

- (3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

「学びに向かう力、人間性等」

小学校  
以上

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

## 知識・技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得 ・ 身体感覚の育成
  - ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
  - ・ 様々な気付き、発見の喜び
  - ・ 日常生活に必要な言葉の理解
  - ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得
- 等

## 思考力・判断力・表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い
- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 自分なりの表現
- ・ 表現する喜び 等

## 遊びを通しての総合的な指導

- ・ 思いやり ・ 安定した情緒 ・ 自信
  - ・ 相手の気持ちの受容 ・ 好奇心、探究心
  - ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
  - ・ 話し合い、目的の共有、協力
  - ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
  - ・ 自然現象や社会現象への関心
- 等

## 学びに向かう力・人間性等

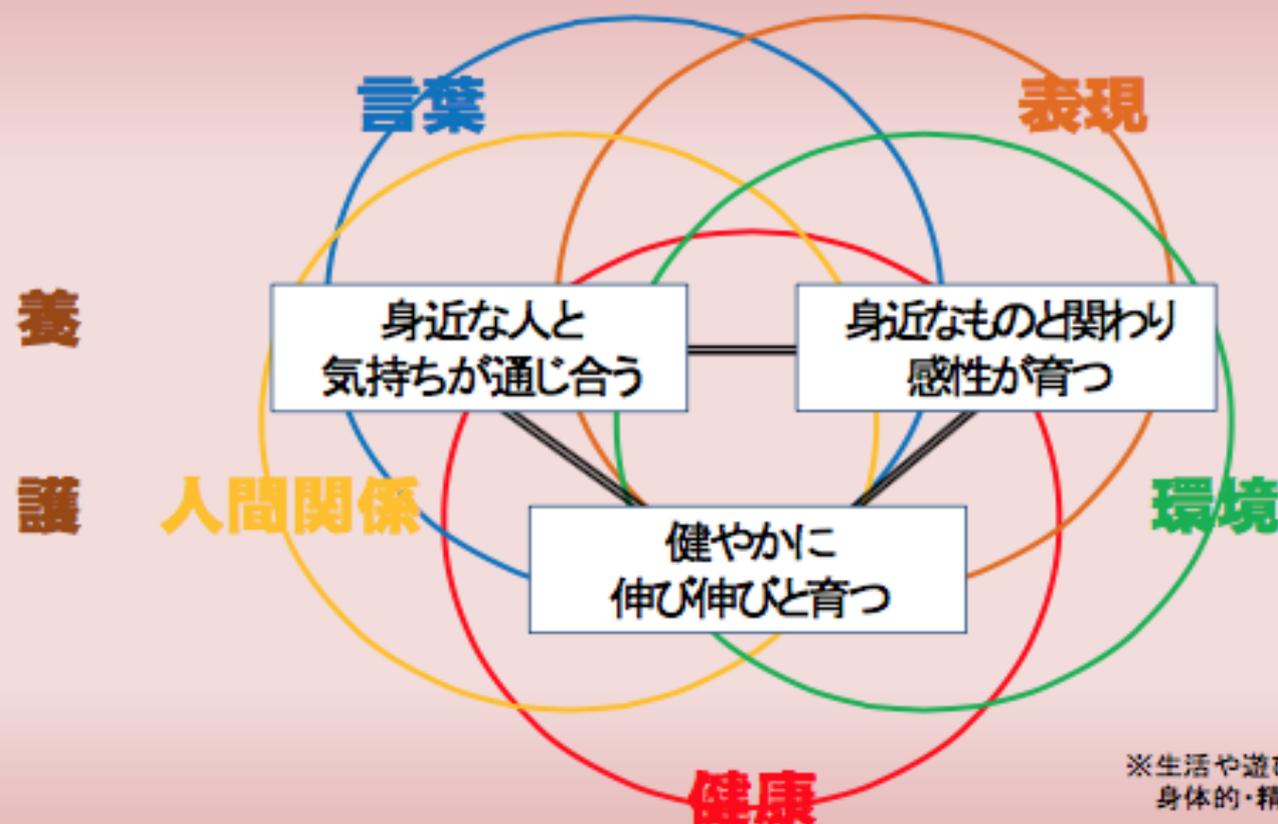
(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

・ 三つの円の中で例示される資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

へ  
環境  
を  
通  
し  
て  
行  
う  
教  
育  
へ

幼  
児  
教  
育

# 0歳児の保育内容の記載のイメージ



○乳児保育については、生活や遊びが充実することを通して、子どもたちの身体的・精神的・社会的発達を基盤を培うという基本的な考え方を踏まえ、乳児を主体に、「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」「健やかに伸び伸びと育つ」という視点から、保育の内容等を記載。保育現場で取り組みやすいものとなるよう整理・充実。

○「身近な人と気持ちが通じ合う」という視点からは、主に現行指針の「言葉」「人間関係」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児からの働きかけを周囲の大人が受容し、応答的に関与する環境の重要性を踏まえ記載。

○「身近なものに関わり感性が育つ」という視点からは、主に現行指針の「表現」「環境」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児が好奇心を持つような環境構成を意識して記載。

# 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の整理イメージ



## 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とのかかわり
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生命尊重・公共心等	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。

# 保育者の専門性：発達をふまえた教育

## 育ちの基本原則

- (1) 発達の順序性
- (2) 未分化から分化
- (3) 自己中心から社会中心へ

誕生からの育ちを考える

## 発達を踏まえて留意したいこと

メディア接触：2歳まで：ゼロ　5歳まで：1時間／日  
座位：　5歳まで：継続して1時間を超えない

# 保育者の専門性：個別最適化教育

一人ひとりの子どもを育む保育者の工夫  
指示、命令、禁止、制限より、疑問、提案、誘いを  
結果よりプロセスを

生活経験、自然体験、5感を活用したリアルな体験を  
幼児期にこそリアリティを  
複数の感覚器を同時に使うことの大切さ  
人と関わりながら、社会性を学ぶことの大切さ

個別最適化教育から、協働的学びへ  
一人一人の尊重があつての、共主体（Co-Agency）  
互惠性のある連携協働

# 保育者の専門性：環境を通じた教育

環境に気付く：好奇心や、探求心、憧れを抱く

↳環境に主体的にかかわろうとする

↳環境にかかわる経験の積み重ねにより健やかに育つ

保育者：幼児期にふさわしい保育の環境づくり

発達過程や興味関心、生活課題の理解に基づく環境構成

自発的・意欲的にかかわれるような環境構成とは？

子どもが遊びに没頭できるような環境の構成

+

臨機応変に子どもとの相互作用の中で環境を再構成

# 保育者の専門性：環境を通じた教育

身近な事柄：自然現象、科学への

乳幼児の気付き、興味関心、好奇心



遊びと生活の中で

科学的に探究する力

数理的資質・能力を育む具体的な事物の操作の経験  
問いや更なる創造を目指す等の問題解決の経験

これらを支える保育者

(子どもと共に環境の再構成・保育者の援助の工夫)

# 保育者の専門性：環境を通じた教育

関心を持つ 問いを立てる

↳ 五感で、感じる、親しむ・触れあう・育てる、調べる

↳ 比べる・分類する・整理する

↳ 活動を深める 探求する

↳ さらに調べる：良く知る

↳ 表現する

↳ 共有する

# 保育者の専門性： 社会情動的（非認知的）力を育む

学術的な呼称	一般的な呼称
自己認識	自信、やり抜く力
意欲	やる気、意欲的
忍耐力	粘り強さ、根気、気概
自制心	意志、精神力、自制心
メタ認知ストラテジー	理解度を把握する、自分の状況把握
社会的適性	リーダーシップ、社会性、協調性
回復力と対処能力	立ち直り、対応、適応
創造性	創造性、工夫
性格特性（Big 5）	繊細、外向性、好奇心、協調性、誠実

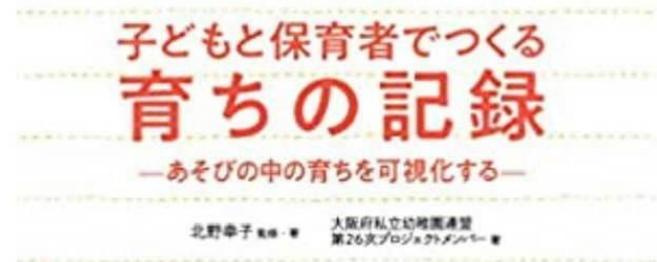
Gutman, L.M., & Schoon, I. (2013). The impact of non-cognitive skills on outcomes for young people. Education Endowment Foundation.

# 社会情動的力を誕生から育むと・・・

大阪府私立幼稚園連盟26次プロジェクト研究

誕生から積み上げられて、  
育まれる

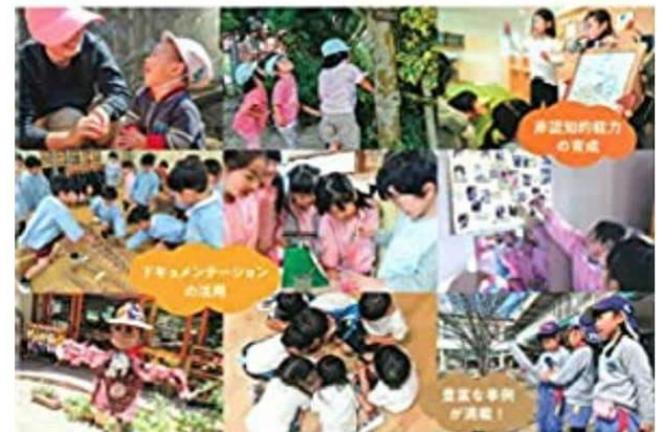
子どもと保育者でつくる 育ちの記録: あそびの中の育ちを可視化する



自尊感情／思いやり／自制心

保育者の援助／環境構成／  
相互作用への援助

等の特徴の集約、分析



大阪府私立幼稚園連盟26次プロジェクト研究の成果より  
卒園児(19年3月卒:449、21年3月卒:188)の社会情動的(非認知的)力調査(25項目)

- \* 子どもの主体的な遊びを中心とした園、研究/研修熱心な園
  - = 話し合い場面や協同的な対話が良く見られる園
  - 一斉活動や問われて答えるなどの発表の場といった機会が少ない園

<結果> 社会情動的力が著しく高い

なお、「自己主張」関係項目＝下位 「思いやり」「協調性」関係項目＝高位

<考察> 子ども主体、好きな遊び中心の保育では、「自己主張」が強くなりすぎないかとか「協調性」や「規範意識」の育ちに課題が生じないかといった懸念が上のデータから払拭された

社会情動的(非認知的)力についての、保育者の深い知見



子ども主体の保育の実践の広がり



「思いやり」や「協調性」が著しく高い

「自己主張」がむしろ比較的低い

社会情動的(非認知的)力が著しく高い

0~5さいの子どもの育ち



一般社団法人 大阪府私立幼稚園連盟  
第26次プロジェクトチーム著

# 保育者の専門性：多様性に対する寛容性を育む

## インクルーシブ教育：全ての子どもに必要

多様性を学び尊重する力を育む  
多様な背景の子どもと関わる力を  
園生活における経験を重ねながら培う



地域社会の縮図を園に  
多文化的背景のある子ども  
特別なニーズのある子ども  
さまざまな個性の子どもとの

園＝育ち合う教育権利保障の場  
すべての子どもの人間関係形成力の育成を

# 保育者の専門性：多様性に対する寛容性を育む

多言文化教育：全ての子どもに必要

日本のみならず、多様な言語や文化，価値観について理解し，互いを尊重しながら学び合い，異文化理解 や多文化共生の考え方を育む

<例>

- 園・地域・NPO等と連携による、母語・母文化に触れる機会の充実
- 園における多文化的背景のある幼児の受入体制の整備
- 言語や文化の違いを尊重した保護者との連携も含め、幼児期の特性を踏まえた指導上の留意事項等の整理や研修の機会の確保

参考：「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日）

# 国連障害者権利委員会

## 審査の仕組み

権利委員会への提出

報告書: 国

パラレルレポート: 障害者団体や日弁連



権利委員会からの質問と国の回答



総括所見・改善勧告

日本の場合: 2014年に批准してから初めて

2022年9月9日: 総括所見・改善勧告

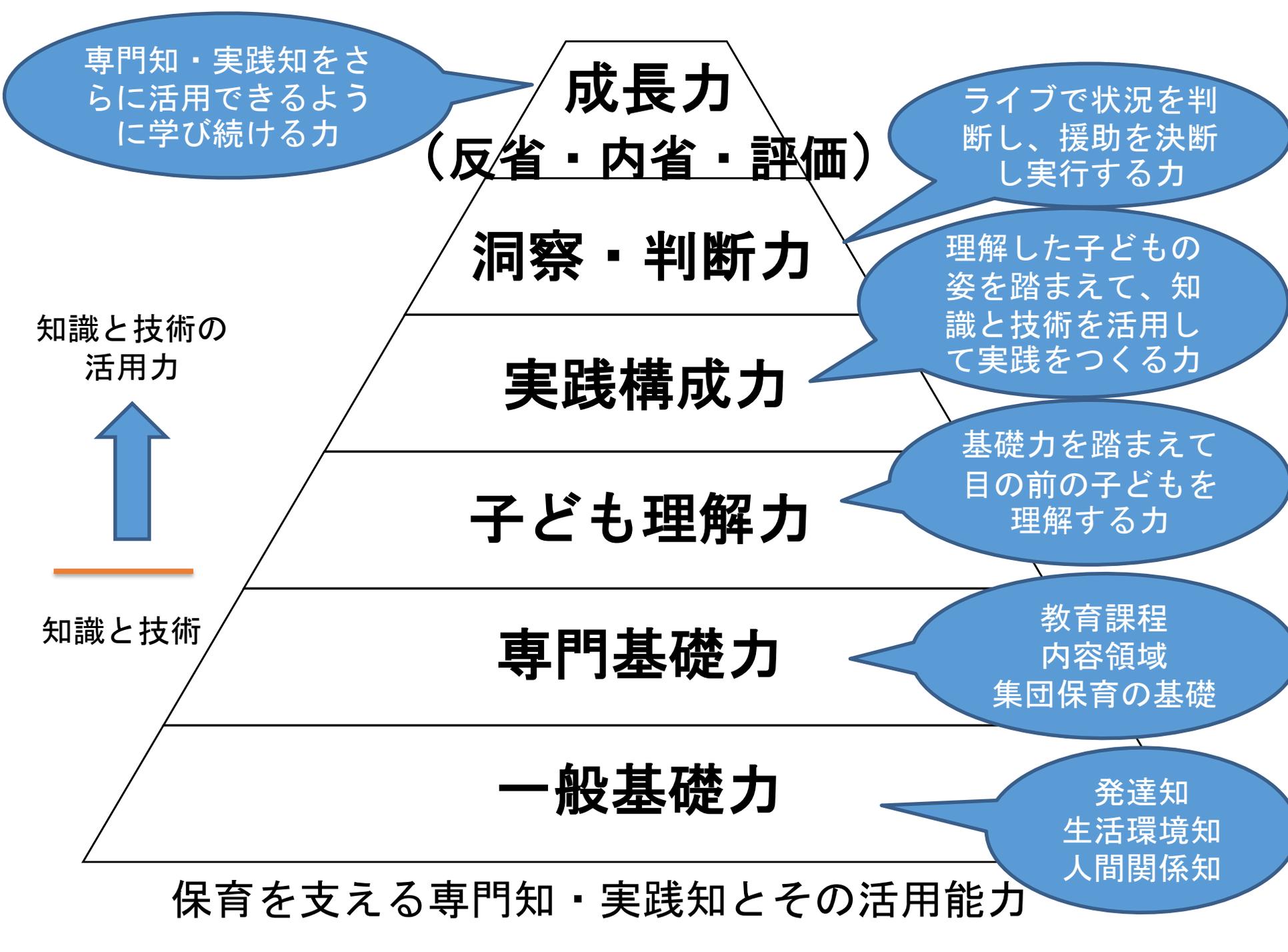
# 日本への総括所見・改善勧告(2022年)

## 評価点

- ・障害者差別解消法、バリアフリー新法、読書バリアフリー法、障害者文化芸術活動推進法、障害者雇用促進法等、の法整備
- ・民間企業への合理的配慮が義務付け

## 改善勧告

- ・平等に地域で自立した生活を送るための国家戦略と法的枠組みが欠如
  - 施設から地域に出て、自立した生活が送れるように
  - 強制入院ではなく、地域でのケアサポートへ
- ・インクルーシブ教育
  - 分離教育の中止



# 保育の独自性と保育者の専門性

## 保育の独自性

- \* 子どもの主体性の尊重
- \* 環境を通じた保育
- \* 目的志向型ではない保育

## ●家庭保育との違い: 集団教育の醍醐味

- ・多様性への寛容性を育む: 社会性、人権意識
- ・豊かな経験を保障する: 多方面への知性の扉

## ●小学校以降の教科主義教育との違い = 経験主義教育

- ・リアリティ ・自明性 ・必然性
- ・汎用性と応用性 ・アクティブ・ラーニング

# すくすくひょうごっ子



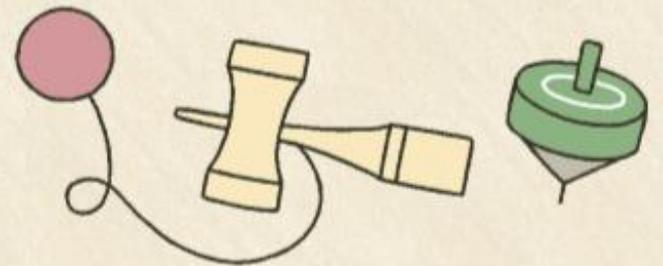
# すくすくひょうごっ子

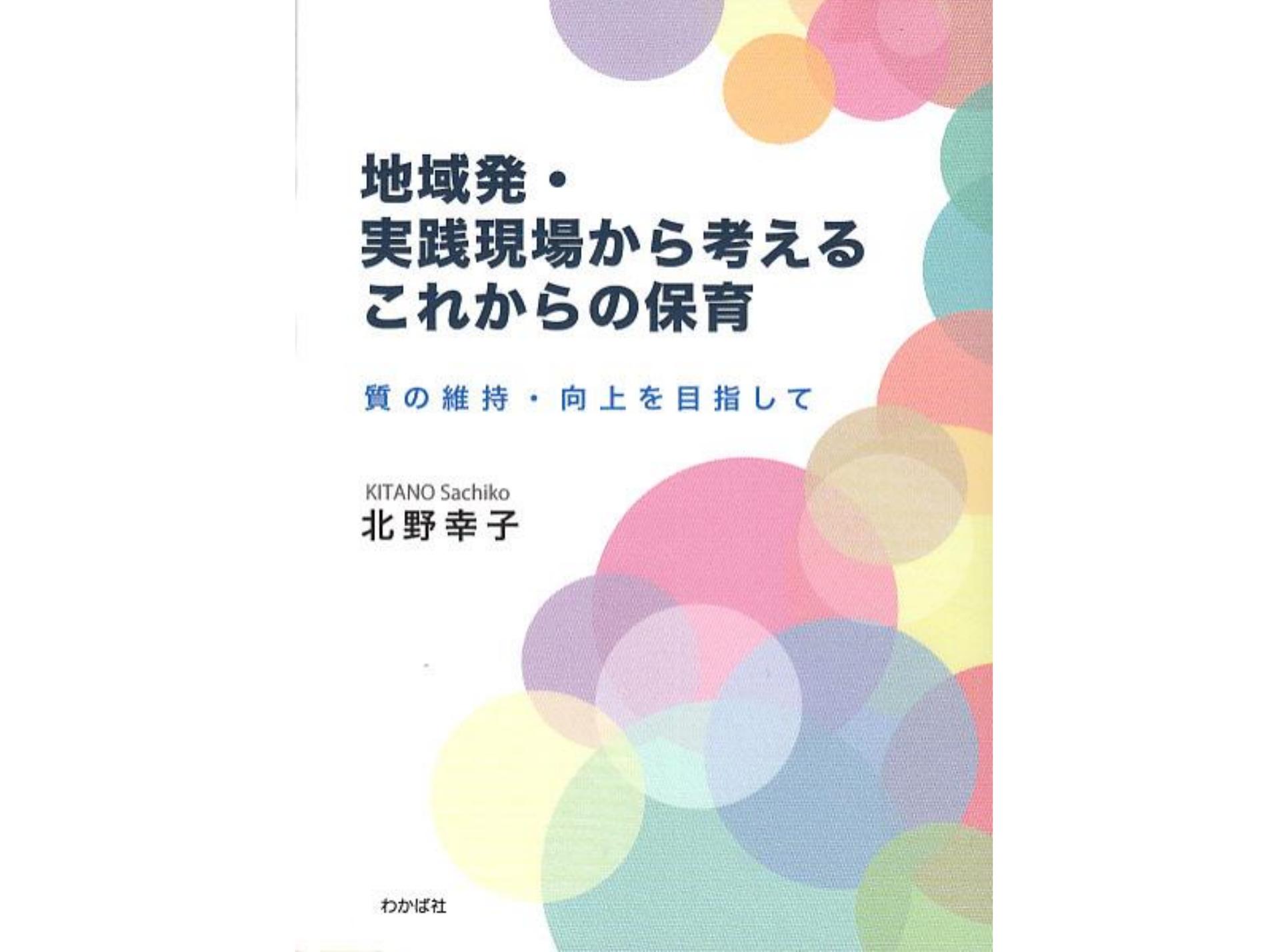
## 乳幼児期は、個人差が大きく、 自己中心的で、リアリティが大事な時期

神戸大学大学院准教授  
北野幸子

乳幼児教育では、小学校のように「授業」とは言わず、「実践」と言います。幼児教育に教科がないのは、この時期は学ぶ内容が重要なのではないからです。たとえば、けん玉であれ、こまであれ、竹馬であれ、自分で興味をもち、関わり、試行錯誤し、工夫し、諦めず取り組み、楽しむ、その経験が大切です。個人差の大きいこの時期には「できた、できない」を問うたり、他者と比較したりするのではなく、人やものへの関心、関わろうとする意欲、楽しさや喜びを感じ、知性への信頼や社会性の基礎を育むことが大切です。

昨今の研究成果から、習い事で楽器を早期から習うよりも家族で音楽を鑑賞したり歌ったりすることが大切であること、ある特定のスポーツのトレーニングよりも重心の移動やバランス感覚、多様な動きを育むことが大切であること、日常生活の中で自分で考えたり、感じたりする言葉を育むことが大切であることなどがわかっています。





# 地域発・ 実践現場から考える これからの保育

質の維持・向上を目指して

KITANO Sachiko  
北野幸子

おわりに